

<暮らしのひとコマ>

毎月わかば新聞を作成していると、記事の内容に悩むことが時々あります。そのような時は昔に作成したわかば新聞を見直し、ネタを探します。その時には写真や記事を通して昔わかばを利用されていた利用者様の姿を拝見することがあります。寂しくもなり、懐かしい気持ちにもなります。それらを見ると「また頑張って思い出を残そう」と思います。

今までのわかば新聞はわかばの1階交流ホールでどなたでも閲覧できるようになっています。わかばの思い出をアルバムのような感覚で見れば嬉しいです。



ガラス越しに呼びかけるご家族様



「ガラス越しの面会」に思う

コロナ禍が始まって、特養のご家族様との面会を制限、5月以降は全面中止とさせていただいております。入所様はもちろん、ご家族様も漠然とした不安の中で過ごされていたことでしょう。そんな不安が少しでも解消できればと、「ガラス越しの面会」を行ないました。わかば一階ホールの道路側の大窓越しに入所様とご家族が対面され、会話はスマートフォンでいただきました。

遠方より親族の方も来られて久しぶりの対面をされた方や、楽しく会話をされていて最後は涙ぐんでしまった方。ガラス越しの対面がもどかしくて「窓開けて」と言い続けていた利用者様も。開けてあげたいのにできないのが切なかったです。

このところ、面会はもちろん外出やイベントも全て中止、入所様にとって退屈でストレスのたまる生活で、「ガラス越しの面会」が私たちにできるささやかな「イベント」でした。

このことが、皆様にとって未来への希望や生きる活力になってくれればと思います。今後も入所様の健康と心の平安を守るために、できることを形にしていこうと考える日々です。



デイ便り

「それ〜!」「足しっかり動かして〜」と声援の中、「ラップ芯ころがしゲーム」が始まりました。目標の点数達成できるよう、がんばってくれました。皆さんなかなかまっすぐ転がらず苦戦されていました。

編集後記

コロナとの闘いはいよいよ長期化し一年では治まらない勢いです。人と人との距離をとることが必須、仕事は「テレワーク」が奨励され、会議はパソコンで。わかばでも医療生協との会議が「Web会議」形式で行なわれ、初めての経験に担当者は悪戦苦闘していました。利用者様とご家族の面会もガラス越しで行ないました。

いつまでこの距離は開いたままなのでしょう。ウイルスは人の心も遠ざけるのでしょうか。外国では感染経路をたどるのにスマホのデータを収集して監視するとか。これが常態になるのでしょうか。「コロナ後」の世界がどうなるのか想像もつきません。私たちはそのような中でも人と人との「絆」を求めて、新しい形を模索してゆかないのだと思います。

(A・M)